



船橋市・ハイワード市姉妹都市提携25周年 市民親善使節団帰国報告

10月25日～30日の旅程を4コースに分かれて、ハイワード市に集結して26日に記念式典が開催された。

船橋市長はじめ市民51名を含む総勢61名の使節団であった。10月26日（水）午前中は、カリフォルニア州立大学イーストベイ校に集まった。当協会からの留学生派遣先であり、また「市立船橋高等学校留学制度」の留学先でもある同校で、イーストベイ校関係者による記念式典が行われた。

式典後セレモニーとして、韓国人、中国人を含む留学生4人の日本語によるパネルディスカッションが開催された。

10月26日17:30～21:00まで、姉妹都市提携25周年記念パーティーが市役所エントランスロビーで開かれた。

パーティーは、鏡開きの後日本酒の振る舞い酒による乾杯で始まりました。

引き続き、ハイワード市長、船橋市長、サンフランシスコ総領事、船橋市国際交流協会会長、カリフォルニア州立大学イーストベイ校学長の挨拶が続いた。

また市の国際交流協会を代表して田村会長より「絆」をテーマに、今回訪問できなかった皆さんの声を集めた寄せ書きを贈った。そして両市の提携に対し長きに渡り、ご尽力されたツルモト夫妻へサンフランシスコ総領事より表彰状が贈られた。

船橋からの参加者による出し物で「炭坑節」の踊りと「上を向いて歩こう」の大合唱で会場は盛り上がり感動の内にパーティーは終了した。

翌日の27日（木）午前中は、ハイワード市内にある「日本庭園（ジャパニーズガーデン）に囲まれたシニアセンター」で日本文化紹介の交流会が開催された。

「折り紙」「書道」「茶道」「車椅子ダンス」が紹介され、多くの参加者と交流が行われた。午後はバスでナバへ移動、ワイナリーを見学し試飲をおこなった。最後の夕食会は全員そろってサンフランシスコならではのシーフード料理を味わい、親善使節団の役割を終了した。

広報委員 中谷

船橋市国際交流協会主催 BBQパーティー



真夏のひととき船橋市外国人ネットワーク創立の記念と国際交流協会員の交流のため7月24日(土)船橋市県民の森でBBQパーティーを行った。当日は曇天で心地よい風があり、懸念された暑さを免れた。

当日、担当の関係者は9時に現地集合、BBQの準備を行い、参加者を迎えた。参加者(スタッフを含む)56名の内、6つの国と地域、14名(中国3、バングラ

ディシュ3、ミャンマー3、韓国1、台湾1、ペルー3)であった。

BBQは6班の編成で11時頃から開始した。食材は牛肉、鶏肉、ソーセージ、麺などに加えて野菜をたっぷりと使用した。料理が出来上がるまでの時間を利用して各国の野外料理の情報交換をしたり、中国語を学習しているサークルは熱心に中国語



会話をトライ、その他さまざまな交流をした。BBQの出来上がりの程度は班によりいろいろであったが、味わいながら楽しくいただいた。

食後は健康的なアウトドアとしてまず、田村国際交流協会会長からの差し入れの西瓜で、賑やかに西瓜わりを行った。また太極拳(重陽)は20名位参加、短時間のレッスンながら体が熱くなり且つ清涼感ある運動成果であった。ネイチャーゲームには15名位参加し、指導者からは自然について学び、その体験が自然環境を大切にしなければという考えにいたるきっかけになった。



このようにBBQ参加者にとってこのパーティーは、お互いの情報交換や食後のお楽しみゲームなどいろいろの体験が出来て、交流を深める有意義なイベントであった。今後とも各種の活動で交流のネットワークを強めていくことが重要と考えている。

交流委員 平尾重博

市民祭り……外国人点描



と関わっているか、カメラを肩に街に繰り出してみました。東アジア地域の方は容姿が我々日本人に近いので判別が容易ではありませんでしたが、アメリカ、オーストリ

恒例の市民祭りが7月23～24日実行されました。23日のオープニング、ソーラン踊り、神輿ゆり起しや阿波踊りパレード等が盛大に行われました。船橋駅南口・本

町通りメイン会場を中心に、域内在住の外国人同朋が如何に祭り

ア、オーストラリア、インド、ドイツ、インドネシア、ブラジル、英国等各国の船橋在住の外国人と出会えました。

船橋市内には約90か国から一万人余の外国人の方が在住されており、我々交流協会も彼らとの共生を求めて住みやすい街・船橋の市民祭りに年々参加する外国人が増えるよう切望するしだいです。

広報委員 石原



今年度第1回日本語短期速習講座が終了!!



5月24日～7月28日の火曜日と木曜日の週2回、全18講座の短期日本語速習講座も今日が最終日。当初は受講生4人でしたが、最終講座まで受講したのはエチオピアのシサイさんと韓国の金さんの2人でした。

授業の前に浴衣の着方を習い、それを着て授業に入りました。

前回の復習の後、最後の講座が始まりました。内容は、ひらがな、カタカナと生活漢字が主ですが、船橋で生活する上ですぐに役立つ日本語に主眼がおかれています。分かりやすく工夫された教材は全部先生方の手作りだそうです。

全講座が終わった後1回目からの総復習はゲーム感覚の授業で、和やかに楽しく進められました。しかし2人には助詞は少し難しい感じでした。浦和講師から今日が最後と言われて「まだ終わり



たくないよ」とシサイさん。まだ講座を続けて欲しいそうでした。

講座の最後にうちわを手作りしました。うちわの表と裏に漢字の「涼風」と「絆」の字を書き入れるため少し漢字の練習をしました。

修了式では修了証が手渡され、2人は嬉しそうに記念写真に納まりました。

この速習講座を修了しても2人には引き続き日本語教室に通ってもっと上達してほしいと思いました。

今回で3回目の速習講座を担当した平井未生講師は「講師として参加する際に、自分が教わる立場だったらどんな先生が理想だろうかということを考え、分かりやすく、誤解のない授業をしました」とおっしゃっていました。

広報委員 塚原



●日本語の講義を終えて●

こんにちは。私は金順福(キム・スンボク)と申します。

今年の4月22日に韓国から来日しました。

ひらがなが読めるくらいの日本語しかできないまま、5月から3ヶ月の日程で市役所で開催していた日本語の教室に参加しました。

始めは何を言っているのか聞き取ることができず、何の話もすることができませんでした。しかし、時間が過ぎて勉強すればするほどおもしろくなり、少しずつ単語もわかるようになりました。

一緒に勉強した仲間の中でエチオピアから来た友達は性格が明るく、クラスのムードメーカーだったのでとても楽しく授業ができました。

そして先生の皆さんが、毎回多くの資料を用意してくださって、言葉が通じない時は親切に身振りで

教えてくださいました。そのお陰で何の話もできなかった私でしたが、簡単な話もできるようになりました。この機会を通じてもう一度感謝の気持ちをおくりたいです。「先生の皆さん、誠にありがとうございました」

日本語の教室に通ったことは私にとって本当にやりがいがあったおもしろい3ヶ月間でした。私のように日本語ができない外国人にとって市役所(国際交流協会)で運営する日本語の教室は役に立つと思います。これからも続けて日本語の教室がきたらいいなと思っています。

力を貸してくださいました皆さんにお礼を申し上げます。

キム・スンボク





カリフォルニア州立大学のイーストベイ校学長に
記念品を贈呈する田村会長

記念パーティーに
参加された方々



山本 龍君



記念パーティーに
北カリフォルニアのミス桜が
出迎えた



記念パーティーが開催された
ハイワード市庁舎



記念パーティー及び交流事業



稲本 菜さん



ヒョーミン 中さん



サンフランシスコ湾を一望出来る高台に位置する
イーストベイ校でのキャンパスツアー



ヤン ジンさん



▲長年の功績が認めら
ルモト夫妻にサンフ
スコ総領事より表彰
られた。



留学生に質問する・梁瀬姉妹都市委員長



記念パーティーの饗割り後の乾杯

カリフォルニア州立大学留学生との意見交換会

都市提携25周年記念式典



◀記念パーティーで
炭坑節を踊る参加者



シニアセンター交流事業での書道



事業に参加者のサイン旗



記念パーティーの状況



シニアセンター交流事業での折り紙



パーティー会場には女性警察署長が制服で出席



シニアセンター交流事業での茶道



められ、ツ
ンフランシ
表彰状が贈



協会から寄せ書きペナントを贈呈



シニアセンター交流事業でのダンス

ハイワードへの留学生が市長表敬訪問

協会では、毎年姉妹都市のハイワード市にあるカリフォルニア州立大学イーストベイ校へ推薦留学生を派遣していますが、第20期生の清浦千絵さんと第21期生の大野陽子さんが、8月17日（水）に市長を表敬訪問しました。

市長及び協会会長が、清浦さんには留学の成果と大野さんにはこれからの抱負を質問され、二人は積極的に発言し、また激励を受けました。



清浦さんは6月に帰国され、来年3月の大学卒業を控えて就活中

ですが、次のように話されました。“最初の1学期間は知識はあっても、課題が日本の3倍ぐらいあって、英語力の面で多少苦勞した。外国の人は間違っても前向きに発言し、言葉のキャッチボールが多い。多くの人と知り合えたのが大きな収穫で、自分の意見を言える知識の引き出しを多く持たなければならないと痛感している。”

大野さんは大学卒業後働いていましたが、外国で学ぶことのメリットを先輩から聞かされてこの制度に応募しました。9ヶ月後に帰国した時には興味や、やりたいことも変わっているかもしれないと考えて、退職して留学することにし、9月に渡米されました。10月末開催の姉妹都市提携25周年事業には現地で参加し、市民団を出迎えました。

姉妹都市委員 中川 純子

日本語を母語としない親と子どものための 進路ガイダンス in CHIBA

9月25日（日）中央公民館で首題のガイダンスが開催されました。当協会も後援し姉妹都市委員会のメンバーが協力しました。当日は日本語を母語としない中学生とその保護者76名と、多数の方の他に、通訳ボランティア、その他のボランティアと多くの方々の参加がありました。

プログラムは以下のとおりでした。

- *外国人の特別入学者選抜を実施している高等学校9校の先生方からの学校説明
- *特別入学者選抜又は一般選抜で既に高校に入学している9名の高校生と大学生からの経験談として「入

試に向けては、面接と作文に力をいれるのが良い、中学の先生から特別指導を受けて助かった、日本語の力を伸ばすのは勿論大切なことだ」というようなアドバイスをしてくれました。

*言語別の分科会

中国語、フィリピン語、スペイン語、タイ語、モンゴル語、ネパール語のグループに分かれ、通訳ボランティア、高校の先生、OB、OGを囲んで質疑応答が行われました。

参加者の方には実り多いものとなったことでしょう。

広報委員 中川

第2回 千葉県国際交流協会連絡協議会 開催報告

10月14日（金）市川市内のホテルにて、2回目の「千葉県国際交流協会連絡協議会」（以下「協議会」と略）が開催されました。

この協議会は、昨年10月船橋市国際交流協会が、近隣の8協会に呼びかけ、船橋市内で初会合を行い発足したもので、今回で2回目となります。

各地の国際交流協会は、それぞれの地域で活発に活動を続けていますが、時には悩みや課題を抱えたり、また新しいことに取り組もうとする時に、他の協会ではどうしているのだろうか、と思うことがあります。その一

助として、協会の運営や活動の充実、発展に資するために、当協会が各地の協会と忌憚のない情報や意見交換を行ってはどうか、という趣旨で呼びかけたところ、賛同を得て発足することになったものです。

今回は、新たに参加した協会を加え、14協会が集まりました。

会議と、その後の懇親会でいろいろ参考になる情報を頂き、大変有意義な協議会になりました。次回幹事・習志野市国際交流協会を決めて解散となりました。

副会長 宮 慶助

災害時外国人サポーター研修 船橋市立宮本小学校避難所宿泊訓練及び市総合防災訓練

8月27日(土)、28日(日)、船橋市立宮本小学校にて、「災害時の外国人サポーター研修」の一環として、外国人を対象にした避難所宿泊訓練の実施及び市総合防災訓練へ参加しました。震度6強を想定した訓練には、外国人やボランティアのサポーター、同市国際交流協会員ら計117人が参加。避難所生活体験や、防災知識の勉強、AEDの使用方法を学んだりしたほか、風船割り、ボーイスカウトによる防災標識クイズや伝言ゲームなどの楽しいイベントも行いました。

まず、サポーター（ボランティア）向け宿泊訓練では、同小学校に「災害多言語支援センター」を立上げ、国際交流協会総務委員長が総括責任者として指揮をとりました。外国人に「安心」してもらうことを目的に、サポーターは管理班、情報班、巡回班に分かれて「情報作成」と「避難所巡回訓練」をしました。

小学校の体育館に設けられた模擬避難所を巡回し、外国人のためにやさしい日本語や外国語で多言語情報チラシを貼り、正しい災害情報を伝えました。また、被災した外国人のニーズを把握するため、それぞれの個人カルテを作成。外国人からの質問・相談は同センターに持

ち帰り検討し、一人一人に合った答えを探して、次のサポーターミーティングで引継ぎます。外国人へのアンケート調査も行い、訓練を通じて「多言語支援センター」の具体的な役割について理解を深めました。



サポーターによる避難所図上訓練

28日午前中に行われた市総合防災訓練では、地元宮本町会のみなさんと一緒に、普段は見ることができない小学校の保健室（災害時臨時救護所）と防災備蓄倉庫を見学しました。

消防職員の指導でパーティションの設置や簡易トイレの組み立てなど、速やかに避難所を機能させるための訓練に参加しました。外国人の子供たちも、興味津々で簡易トイレの組立に参加しました。

一泊二日の宿泊訓練と総合防災訓練を通じて、地元在住の外国人と「顔の見える関係」を築き、より交流しやすい「安心感」を届けることができました。

災害時外国人サポーター 李 暁煌

●外国人避難所宿泊訓練を体験して●

私は8月に行われた避難所宿泊訓練に参加しました。今まで、防災訓練に参加したことがなかったので、いろいろな勉強ができてとても貴重な経験になりました。

3月の地震が起きてから、もう半年も経ちましたが、今でも地震が起きたときのことを思い出すと胸がドキドキします。今回の防災訓練を通して、実際に使用する避難所での生活を体験、人工呼吸やAED訓練、簡単な応急措置など災害が起きたら、どのようにすればよいのかということも教えてもらいました。

また、避難所に泊り、非常食を食べたり、寝袋で

寝たりし、少しは今、避難所に住んでいる被災者の気持ちがわかりました。

さらにボランティアの人たちに今、何が困っているか話しをしたとき、緊張や不安がなくなりました。私も機会があれば、ボランティア活動に参加したいと思いました。

今回はとてもいい経験ができました。

宿泊訓練体験者 王 萱



外国人のための防災講座

お知らせ

カリフォルニア州立大学への留学生を募集

姉妹都市米田・ハイワード市にあるカリフォルニア州立大学イーストベイ校への留学生（1年間）を募集します。

期間：24年9月中旬～25年6月中旬

対象：以下の全てに該当する人

- ①日本国籍を有し、市内に継続して1年以上住んでいる
- ②平成4年4月1日以前に生まれ、高校を卒業している
- ③TOEFL525点（iBT71点）以上を取得
- ④その他、ハイワード市との姉妹都市交流等に協力できる。

※詳細は、募集案内を参照。

募集人数：3名 受入学部：芸術、文学、社会科学、経済、教育、科学

選考方法：1次→書類選考、2次→英語・日本語の面接（2月19日（日））

申込：2月3日（金）（必着）までに、所定の用紙を国際交流協会（〒273-8501※住所不要）へ※用紙は、協会事務局で配布。また協会HPでダウンロード可。

あしがき

我が家の居間の窓際に、韓国の国花であるムクゲの木を植えてあるが、今年の7月のある朝、家内がムクゲの枝の間に椋鳥の巣を発見した。

巣は未だ完成しておらず、一生懸命の材料を運んでいるようで、椋鳥がいなくて多い。巣が完成したある朝、2個の卵を生んでいるのが分かり、椋鳥が巣にいることが多くなった。8月のある朝には、雛がふ化しているのが確認できた。毎朝雛が成長するのが楽しみであったが、その後巣には雛はいなくなっていた。恐らく、カラスにさらわれてしまったようで、大変残念である。

(Y.K)

バス研修

4月に予定していましたが交流委員会のバス研修は、震災のために延期され10月22日(土)に総勢35名(内外国人10名)で社会教育バスに乗り小金井公園内にある「江戸東京たてもの園」に行ってきました。朝方は大雨でしたので、小雨決行にはほど遠いと心配しました。出発時点では止む気配でしたが、現地到着時には又雨です!!にも拘らず1時間余りのガイドボランティアさんの熱心な説明に皆さん傘をさして耳を傾けていました。

この「たてもの園」には、平成5年に建設され江戸～昭和初期の歴史的価値のあるものを移築し復元された建物が29棟あります。洋風のモダンな家屋、2・26事件の政治家高橋是清邸、アニメ映画の「千と千尋の神隠し」に登場した子宝湯の建物など、感動するものばかりです。昼食をとり午後



高橋是清邸

には雨も止み自由散策を楽しみました。

帰りのバスの中では、フィリピンの人達がリードして一緒に歌を唄ったり、ビンゴゲームなどで盛り上がりました。

帰宅後、参加された外国の皆さんに感想を伺ったところ「日本の昔の建物を見て勉強になりました」「日本の歴史を学びました」「よく壊れないで残りましたね!!」などなど皆さん一同に「よかった」「素晴らしかった」と云って下さいました。

午前中は雨降りでしたが、午後は晴れてくれましたので「最後良ければ、すべてよし」と云うことでしょうか!!



子宝湯

交流委員
伊藤 ヨシ子



ズームアップ

今回ご紹介する方はインドネシア、バリ島出身の小林アイティンさんです。

彼女は、ご主人が学生時代に何度かバリ旅行に来たときに知り合って国際結婚し、今年で25年になります。今では日本語もとても上手ですが、始めはお互いに言葉がわからないので、英語でのコミュニケーションだったそうです。高根木戸、千葉中央などに住んだ後、現在はご主人の実家である北習志野の閑静な住宅街に住んでいます。

3人の子育てをしながら、粘土で作るロマンボールやパーティードレスを作ったりして自分と子供のために時間をあてていました。やがてインドネシアの料理を通じてインドネシアのことを日本の方に知ってもらいたいと思うようになり、7年前自宅の1階を改装し、レストラン、バリ・ケラトンを開きました。シェフとしてバリの実家の家庭料理を味わってもらうため、腕を振っています。毎年1月に里帰りをし、

母の味を確かめつつ、今のインドネシアを吸収して帰ってくるそうです。第2金、第4土曜日は予約制のバイキング料理で、そのときはインドネシアのダンスも見られます。

彼女は明るく気さくで、とても社交的なので、リピーターが多く、食事に来た方やご近所の知り合いなどの繋がりから人の輪が広がっているようです。

いろんなことに挑戦することが大好きで、インドネシアでエステを習得し、いまでは午前と午後の2回(レストランの時間外)予約制でエステもやっています。趣味の部屋ではインドネシアの雑貨なども展示販売しています。



小林アイティンさん

広報委員 塚原

